

1964年東京五輪 キエル兄弟(スウェーデン) 人間愛の金メダル

今回は、過去のオリンピック(五輪)での出来事を振り返ります。取り上げるのは、五輪が求めるフェアプレー精神を体現した、とたたえられたエピソードです。

1964年の東京五輪のヨット(セーリング)競技は、神奈川県・江の島沖で行われました。フライングダッチマン級(2人乗り)は、20をこえる国がエントリー。10月12日から10日間にわたってレースを行い、ゴールした順番による総合得点で順位を競うものでした。第3レースがあった10月14日は、雨雲が空をおおい、風速15メートルほどの強い北風が吹いていました。

オーストラリアのグレゴリー・ダウ選手、チャールス・ウィンター選手の船は、トップグループにいました。第3マークのブイ(浮き)を回ろうとしていた時です。強風に対して、体を大きく乗り出して船の傾きを保っていたウィンター選手が、海の中に落ちてしまったのです。ダウ選手が気づいて助けようとしませんが、船がひっくり返ってしまいます。

その時、後ろから来たのがスウェーデンの兄弟、ラース・キエル選手とスリグ・キエル選手の船。追い上げようと勢いをつけていたところ、波の間にウィンター選手の姿を見つけます。2人はレースを中断して100メートルほど引き返し、ロープを投げてウィンター選手を救助。その後レースに戻りましたが、結果はふるいませんでした。

レースを終え、キエル兄弟は語ります。「救助するのが海の男の友情だと思ってロープを投げた。当然のルールを守っただけだよ」。毎日新聞ではこの様子を、「これぞ“人間愛の金メダル”」という見出しで大きく報道しました。

翌日2人が港に行くと、ウィンター選手が待っていました。感謝を伝え、キエル兄弟と固い握手をかわしました。

○声(こゝろ)で読む。
○分からない言葉 読み方意味は、赤線を引く。
○記事の内容、読んだ感想を文章で書く。

名前()

内容()

感想()

Vertical dashed lines for writing content.

